

# 1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年4月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2779101241
法人名	医療法人 田中クリニック
事業所名	リ・リブホーム
所在地	大阪市淀川区西中島6丁目11番31号 (電話) 06-6301-1090
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 4月 1日

## 【情報提供票より】(平成 20年 3月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	21人	常勤 8人, 非常勤 13人, 常勤換算	14.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	7階建ての 4階 ~ 5階部分

### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	35,000円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) (300,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

### (4) 利用者の概要 (平成 20年 3月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	7名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中クリニック、東淀川医誠会病院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『リ・リブホーム』とは「もう一度生きる」という意味でそれをホームの名称にしています。『認知症でも症状が改善され、自宅に戻る』ということを目標にケアを実行しています。ホームは駅から近い商業地の便利な場所に立地し、向かいには幼稚園や小学校があり賑やかな子どもの声が聞こえてくる環境です。法人所有の複合ビルの4階5階がグループホームになっており、2階は診療所があり医療との連携が図られています。3階にはデイケアセンターがあり、週日に利用することにより地域の利用者との交流の場となっています。7階屋上には広い菜園があり、季節の花や野菜を育て味噌汁やサラダに利用しています。『家庭的な雰囲気の中で利用者に楽しく過ごして頂く』ことも目標にしており、クリニックを受診する精神的な不安や、独居の淋しさを抱えた高齢者に対し、経済的支援のもと安心した生活の場の提供をと開設されたホームでもあり、区の生活支援課との連絡を密に取っています。入居して数ヶ月の利用者が『もう何年も暮らしているみたい』と穏やかな表情で話していました。職員は和気あいあいとした雰囲気の中での仕事が楽しいと話しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の自己評価及び外部評価は職員に回覧し、評価結果を活用し改善に取り組んでいます。ホーム内の年間研修計画はありませんが、法人の全体研修が毎月あり受講する機会を得ています。外部研修は伝達し資料を回覧しています。水分摂取に関しては日常的には記録していませんが、食事時以外にお茶を飲む機会は多くあります。体調不良の場合は水分摂取量を記録し留意しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価を実施する意義を理解しており、前回の評価結果を反映しながら職員と話し合い、共に自己評価票を作成しています。全体会議で今回の調査についても説明し、具体的な改善に取り組む予定です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の規定を定めています。地域民生委員、区社協職員、利用者、家族、ホーム管理者・職員の参加により昨年度は4回開催し、利用者の生活の様子や行事の報告などを行い理解を得ています。家族からの要望も聴き改善の参考にしています。今年度は少なくとも年6回の開催が求められます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時に利用者の近況を報告し、要望・希望など何でも言っただけのような雰囲気づくりをしています。健康状態について変化があればその都度電話で連絡しています。今年1月から広報誌『リ・リブ便り』を発行し、面会の回数が少ない家族にも送付し、家族からの要望・意見を聴いています。受けた意見は日々の記録やカンファレンスノートに記し介護計画にも反映しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の自治会に入会はしていませんが、盆踊りへの参加など地域との交流を行っています。近隣小学校の運動会への参加や公園への散歩時には、保育園児との交流があります。法人のデイケアセンターの利用により、地域からの利用者で交流しています。地域内にグループホームの支援者・指導者・理解者を一人でも多く増やすことの必要性に気付いています。

## 2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○ <b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営目的・方針が提示されており、理念としていますが、地域密着サービスとしての役割を目指した内容となっていません。具体的には地域生活の継続支援や、地域と事業所との連携強化に向けた取り組みは行われています。	○	事業所の立場の変化に応じ、具体的な取り組みに沿った理念の見直しが求められます。
2	2	○ <b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	『家庭的な雰囲気の中で利用者に楽しく過ごしていただく』『入居者一人ひとりの人格を尊重したケアを心がける』など具体的な目標に基づいてケアに当たることができるよう、ミーティングの折に職員に周知し、更に利用者が社会(自宅)に戻れることも目標として取り組んでいます。	○	運営方針とは別に具体的でわかりやすい理念を作り、日々職員が理解できるようにまた、利用者や家族にも理解が浸透することも期待して、目につく処に掲示することが求められます。
2. 地域との支えあい					
3	5	○ <b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域の自治会に入会はしていませんが、盆踊りへの参加など地域との交流を行っています。近隣小学校の運動会への参加や、公園への散歩時には保育園児との交流があります。同法人のデイケアに通い、地域の利用者の方との交流の場にもなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価及び外部評価は職員に回覧し、全員が目を通し確認印を押しています。評価結果を活用し改善に取り組んでいます。今回の自己評価票は職員と共に作成しました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定を定めています。利用者家族・地域民生委員・区社協職員・ホームの職員の参加により昨年は運営推進会議を4回開催し、利用者の生活の様子や行事の報告についてスライドを活用しながら説明し、理解を得ています。家族からの要望も聴き改善の参考にしています。	○	今年度はおおむね2ヶ月に1回以上、少なくとも年6回開催することが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームには生活保護の支援を受けている利用者が多く、区の保健福祉センター・支援運営課の職員とは毎月訪問を受けるなど連携しています。当法人代表者による『認知症の研修会』は区の職員研修にも利用されています。区の新人職員研修としてホームの見学も受け入れています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の近況を報告しています。健康状態については、変化があればその都度電話で連絡しています。今年1月から広報誌を発行し、職員の紹介や行事の報告・運営推進会議の報告などを掲載し家族に報せています。金銭管理については、出納帳のコピーを請求書に同封したり、面会時に報告したりしています。	○	個別の小口現金出納帳に家族の確認サインがありません。家族の訪問時に毎月確認したサインを受けることが求められます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望・希望など何でも言っていただけるような雰囲気づくりをしています。運営推進会議にも家族に出席してもらい意見を伺っています。面会の回数が少ない家族には広報誌『リ・リブ便り』を送付し、利用者の様子を報せて家族から要望・意見を聴いています。受けた意見は日々の記録に残し、介護計画等に反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職がやむを得ない場合は、退職時期を相談し、新しい職員と引継ぎをスムーズに行い、利用者に迷惑がかからないよう配慮しています。今年から広報誌を発行し、まず顔写真入りで職員の紹介を行いました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人全体の研修会を実施しており、職員は参加しています。救急講座については全職員が受講できるよう2ヶ月同じテーマで開催し、全員が受講するよう配慮しています。区の認知症グループホーム連絡会での事例検討や大阪認知症高齢者グループホーム協議会の研修に参加し、ホーム内で伝達研修を行っています。介護計画について大阪認知症高齢者グループホーム協議会方式の様式を学び、今後の計画作成に反映する予定です。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淀川区グループホーム連絡会を2ヶ月に1回各ホーム持ち回りで開催し、情報交換や事例検討会を行っています。当ホームの時「事例検討」においては、当クリニックの院長よりアドバイスを参考にしてしています。今年は各ホームの見学も兼ねた企画をしています。その他『大阪認知症高齢者グループホーム協議会』や『大阪市ケアのあり方研究会』にも所属しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ひとり暮らしの方が入居する場合が多く、入居前にはケアマネジャーに同行し自宅を訪問しています。また、3階のデイケアの利用者が入居されることもあります。毎日デイケアを利用するホームの利用者や職員とは顔馴染みであり、入居後も違和感なくホームの生活に馴染んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活歴を知り、趣味や特技を把握して日々の生活の中で、得意なこと・好きなことには関わってもらいます。縫い物の得意な方は若い職員が雑巾を縫っている手元をみて手伝ってくれます。編み物や屋上の菜園の種まき、間引き菜の時期や掃除の仕方等のコツも教えてもらいます。木に実っている金柑は利用者と共に砂糖煮にしました。昔の歌や昔の大阪の話聞かせてもらうこともあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者や家族から話や要望を聴き、入居後も利用者との会話や関わりの中で希望や意向を汲み取るよう努めています。得られた情報は記録に残し、職員間の申し送りで共有しています。本人が望んでいることは家族を交えて話し合い検討しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人に対し担当職員を2名定めており、気付いたことはその日のリーダーに報告・記録し、計画作成担当者が把握します。作成した介護計画書は、利用者の直近の記録が入っているバインダーへ個別に提示しており、職員は全員いつでも目を通すことができます。新しい介護計画書が作成されればその都度申し送りにより把握し、捺印をするシステムになっています。利用者や家族からも承認のサインをもらっています。利用者の居室には常に介護計画書を一部置いてあり確認ができます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護に必要な記録は揃っていました。モニタリングシートは1ヶ月ごとに記入しています。利用者本人からの聴き取り用紙もあり日々のミーティング時に報告しています。また、カンファレンスノートがあり、介護計画の見直し時に直近の情報が記録してあります。基本的に3ヶ月ごとに介護計画は作成していますが、入院者が退院する際には随時見直しをしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人のクリニックとの医療連携体制を活かして、体調に変化がある時は主治医に連絡し、指示を受け対応しています。その際、必要に応じてクリニックの看護師が状態を見に来ています。利用者や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応しています。医療制度を活用し訪問リハビリを受けています。ヘルパーの研修を受けた方がボランティアに来ることがあります。デイケアの利用者との交流もあります。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から母体クリニックへの受診者である利用者が多く、毎週の往診はクリニックの院長に来てもらい、診断治療を受けています。また複数の医療機関と連携を取り、家族と協力して通院介助を行っています。リハビリの訪問治療を受けているケースもあります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けての対応指針は定めてあり、研修も実施していますが、現在までのところ終末期の対応事例はまだありません。必要が生じた場合は家族・医師とも話し合いを行い、対応を決めます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する規定が定められ、職員には入職時のオリエンテーション時に伝え周知しています。利用者を人生の先輩として尊敬し、不適切な対応や言葉かけにならないよう、定期的に全体ミーティングを実施し、職員間で意識確認をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月曜日から土曜日まで階下のデイケアセンターの利用ができることを伝え、参加の希望を選択してもらいます。デイケアに行く前に朝の散歩や体操など希望に応じています。デイケアに参加しない利用者は、その間外出をすることもあります。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日は調理済みの副食が母体法人の経営する1階のレストランから運ばれます。ご飯と味噌汁などは各フロアで調理し温かい物を提供しています。それぞれの器に盛り付け、職員と共に食事をします。食事の後片付け(食器洗い・食器拭き)は利用者と一緒に行います。日曜日は利用者のリクエストを基に献立を工夫し、利用者と一緒に調理をします。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴曜日・時間を設定していますが、利用者の体調や希望に合わせて適宜対応しています。ゆっくりと湯につかりたい方には希望に添った対応をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの役割や楽しみを見つけだすことの必要性を理解しており、利用者自らも自室の掃除や洗濯たたみ、食器拭きなど毎日の仕事を楽しんでいます。また、平日はデイケアを利用し、楽しみながら脳と体の機能訓練プログラムに参加しています。日曜日は買い物による外出、食事やおやつ作りを一緒にできるよう支援しています。屋上の菜園で野菜を育て収穫する喜びを得ることができます。食後に喫煙が楽しみな利用者は、玄関の入り口の外に椅子とテーブルが用意されゆっくりとした時間を楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	平日はデイケアに行く前に近隣の公園へ散歩に出かけます。近くのコンビニやスーパーマーケットへの買い物にも徒歩で出かけます。日曜日には昼食用に好みの物を買ってくることもあります。外食に出かけることもあります。外出希望の方に対応できる体制を取る工夫が必要であることに管理者は気付いています。1週間に1回以上、利用者全員が外出できる工夫が望まれます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターは自由に乗り降りができ、フロアへの入り口（玄関）も日中は鍵を掛けず、利用者は自由に行動できます。見守りの少ない時間には、入り口のドアが開くと音が鳴る工夫をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て利用者と共に避難訓練を行っています。消火器の使い方の指導も受けています。火災発生マニュアル緊急通報訓練も行っています。非常口は各フロアに2箇所あります。災害対策として、水や非常食の備蓄は行われていない状況です。	○	火災以外の災害（地震・水害など）対策のマニュアルの作成が求められます。災害時の非常用食料や水、備品を準備し、定期的に（年に1回）点検することが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月曜日から土曜日までは、1階のレストランから有機野菜を取り入れた副食を提供してもらっています。栄養面でも法人の栄養士が工夫して豊富な食材をバランスよく取り入れています。食事摂取量は毎食記録していますが、水分の摂取量は特に記録していません。食事時以外にも1日4回は水分を勧める機会があり摂取してもらっています。常にお茶を置いてあり随時飲むことができます。体調不良や発熱時には水分摂取量を記録し把握しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のダイニングテーブル以外にソファがあり、新聞や雑誌を置きゆっくり寛げる配慮をしています。玄関の入り口の外にも喫煙できるように椅子テーブルが設置してあり、時には利用者が食後の一服で寛ぐ場所になっています。玄関扉には利用者が作った季節感のある装飾が飾られています。ホームは6階建てのビルですが、バルコニーや外階段の踊り場などの空間を上手く利用して季節の花を育て、利用者はロビーに居ながら季節を感じて楽しんでいます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にそれぞれの好みでベッドを持参したり、レンタルしたりして整えています。チェスト等も自分の好みに合わせて設置しています。一人暮らしの方が入居される場合は、自宅からほとんどの荷物を持参しています。仏壇を持ってこられている利用者もいます。DIYケアで作ったお気に入りの作品を飾られている居室もあります。		